校長メッセージ　～合言葉は「子どもに軸足！」～

東長良中学校　丹羽

手段の目的化を避ける

11 月中旬、お昼の放送で、健やか部会が上靴を持ち帰って洗うことの重要性について全校に話しました。本校では 2 週間に一度上靴を持ち帰って洗うということが習慣化されています。しかし、生徒たちはそんな頻繁に持ち帰って洗う必要があるのかという素朴な疑問を抱き、活動が形骸化しているように感じていました。そこで、健やか部会で話し合い、本来の目的（2 週間に一度持ち帰ることの必要性）を今一度確認してみようということになりました。1 週間履いたインソールと、2 週間履いたインソールに、ニンヒドリンというたんぱく質（アミノ酸）や尿素、身体のアカに敏感に反応し、紫色に発色する薬品を塗り、発色反応を比べたのです。1 週間履いたインソールは踵部分が特に反応し、紫色に発色しました。また、2 週間履いたインソールは全体的に紫色に発色し、色も濃いことが分かりました。実際の写真を見た生徒から、2 週間履いたインソールの汚れに驚きの声があがりました。

今回のことは、手段が目的化しているのではないかという生徒たちの疑問をもとに、生徒たち自身が本来の目的を確認するよい機会となりました。

手段の目的化とは、ある目的を実現するために手段を選択したはずなのに、その手段を実行すること自体が目的化してしまうことです。私たちは「目的は何なのか。」を忘れその行動をとることそのものに何の疑問ももたなくなってしまうことがあります。たとえば、子どもを叱っている時、何のために叱っているのだろうと思う事があります。自分の中ではっきりとした目的が見当たらないのです。つまり、「叱って」いるのではなく、感情にまかせて「怒って」しまっているのです。本来は目的があり、その達成手段として「叱る」という行為があります。目的を明言できない時、それは間違いなく「怒って」いるのです。

とかく私たちは、「なぜやるか」ということより「どうやるか」に重きを置きがちです。それが悪いというわけではありません。しかし、やはり何かを達成しようという場面においては「手段」を「目的」にすることは避けるべきです。

有名企業に入社したい。芸能人になりたい。パティシエになりたい。介護士になりたい。医者になりたい。これらのような「～になりたい」という職業的な視点は目的だと思うかもしれませんが、これも手段であると考えた方が良いのではないでしょうか。例えば「人が健康に暮らせる社会にしたい」「日本の医療に貢献したい」というなら、何も医者にこだわる必要はありません。そのための最適の職が医者の人、つまり「医者になる＝その人の力が一番発揮される」人がなればいいのです。つまり、方法論に過ぎないわけです。看護、医療事務、手術室の清掃、医薬品の搬送等、医療への貢献は様々な形で存在します。つまり、医療への貢献の「手段」として医者を選んでいるということです。これは、特に進路を選択する上でしっかり考えて欲しいことです。収入の良い職業に就職する為に良い大学を出る。これはもちろん人生の選択として間違いではないですが、「収入が良いから」といった理由だけで職業を選んでしまうと、仕事のモチベーションがあがらないですし、その人の能力も発揮出来ないかもしれません。

「社会の中でよりよく生きていけるようにする」という本来の目的を達成するために、たくさんの手段が選択肢としてあります。子どもたちには、自分の適性を見極め、手段が目的化しないように、本来の目的を再確認しながら進路を切り開いてほしいと思います。